

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500178		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	ガーデンコート南流山		
所在地	千葉県流山市大字木312(木B107街区14)		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様、ご家族と共に又地域の方々とも交流を深めております。安心安全を大切にし健やかな暮らしが出来る施設を目指しております。 お客様ご家族同志の交流を深めていただくためにハロウィーンパーティーやクリスマス会を開催しております。 外出レクリエーションも行っており、季節を感じていただく外出や近隣の記念館へ足を運んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の尊厳を大切に、利用者本位の支援に取り組んでいる。入浴の回数などは希望に応えるとともに安全に配慮し、排泄はできるかぎりトイレでできるよう支援している。食事はホームで調理しており、献立は利用者の希望も反映させて提供している。医療との連携も取れており、月2回の往診や急変時にも対応できる体制があり、利用者及び職員の安心につながっている。また、家族などの希望により、看取りもおこなっている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の心得にもあります「ご家族の安心」「お客様の笑顔」管理者、スタッフ共に共有し合い実践に繋げております。	管理者は、「ご家族の安心」「お客様の笑顔」の理念のもと、職員と共有を図りながら、実践につなげるようにしている。理念は、玄関や各ユニットに大きく掲示をしてもよいと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の他事業所等に出掛け、他の施設のお客様やそのご家族、職員との交流を行いました。	近隣の神社には、毎年初詣に行っている。法人が運営する他施設が地域に開放したカフェに出かけたり、公園に散歩に行くなどしている。また、小学生の体験授業も受け入れている。	自治会に加入したり、地域の行事に参加する機会を設けるなど、地域とのさらなる関係づくりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居のお問合せの中で介護相談も行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様ご家族、民生委員、市役所、地域包括ご出席いただき、助言をいただいたり事故や直近のお客様の様子を御報告をさせて頂いております。	運営推進会議には市の担当課や地域包括支援センターの職員、民生委員、家族代表などが参加し、2か月に1回開催している。議題はホームの状況や事故報告、研修報告、身体拘束適正化委員などであり、参加者から助言などをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場においてご報告をさせて頂いております。	市の担当課や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、連携が図れている。市の窓口にはさまざまな相談などで訪問している。地域包括支援センターとは、日頃から情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の研修に於いて身体拘束について学んでおり、スタッフも良く理解しております。新規採用時には説明をおこなっております。当事業所内では玄関の施錠はおこなっておりますが、身体拘束の実施例はありません。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、身体拘束適正化の指針を整備するとともに、職員研修で徹底を図っている。玄関は安全のため施錠しているが、ユニット間の利用者の行き来は自由である。会議では言葉による拘束についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の研修に於いて高齢者虐待について学んでおり、スタッフも良く理解しております。新規採用時には説明をおこなっております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束、高齢者虐待の研修の中で権利擁護に触れスタッフに周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・初回面談、契約時に丁寧な説明を心がけお客様にご納得いただける様説明させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時や運営推進会議などの場でご意見やご希望お尋ねし、精査したうえで実践につなげています。	家族の来訪が多く、ケアマネジャーや主任が意向の把握に努めている。運営推進会議にも家族代表が参加しており、意見を表出する機会を設けている。利用者の要望等は日々聞き取っており、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議・ユニット会議等で業務の改善の話し合いを行っており、スタッフの意見を尊重した導線作りに反映させています。	職員の意見は拠点会議(ユニット合同会議)やユニット会議などで聞く機会を設けている。年4回個人面談もおこなっており、話し合う機会がある。職員の意見から備品を揃えたり、業務の手順を変えたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容の見直しをユニット会議等で話し合い、又日々、個々のスタッフとの対話を通じて一人一人の意見を聞きやりがいを持って働ける様務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修を通し技術・知識の向上に努めており、参加出来ないスタッフには資料を配布しております。研修の回数を同じ項目で複数回行いスタッフが出来るだけ参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、意見や助言をいただいております。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り、観察、会話を通し、本人の要望をみだし、不安の払しょくと安心安全な暮らしにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り、観察、会話を通し、本人の要望をみだし、不安の払しょくと安心安全な暮らしにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族とよく話し合いご協力頂きながら本人により良い支援の提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、ご家族とよく話し合い、本人の出来る事、出来ない事を把握し、お掃除、洗濯物を豊んでいただくことなどを手伝っていただきスタッフとの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時に良くお話しをし、本人の状況、状況の情報共有に務め本人とご家族との信頼関係に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊の制限は特になく自由に行っていただいております。ご家族との外食や旅行に行かれるお客様もいらっしゃいます。近隣の施設に訪問したり、ご家族以外の友人知人との面会もされております。	友人や知人の面会は少ないが、親族や家族と一緒に墓参りや外食に出かけたり、中には他県まで旅行に行く利用者もいる。家族との電話の取次ぎも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケ、体操、外出レク等を行い部屋にこもりがちにならないように努めており舞う。また利用者同士の関係を見極め席替え等も行いながら関係を深めていただいています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したお客様の御家族に当施設で過ごされていた時のお写真などをお送りしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全体からの情報提供を受けて、サービス担当責任者やケアマネージャーと会議を開きお客様の本人の暮らし方の要望に出来るだけ応えて行く努力をしています。	日常の関わりを通して、利用者の思いや意向を把握するようにしている。得た情報は毎月開かれるユニット会議において職員に周知し、支援に反映させている。利用者には日ごろから声かけを多くするなかで、話しやすい環境づくりを心がけ、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者を中心にお客様、ご家族から聞き取りを行い生活歴などの把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフを中心に現状のお客様の状態を把握し情報共有に務め、日々のケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全体がチームとなりご家族、医療関係者の意見を反映しケアマネージャーとともに作成しています。	介護計画は各ユニットの責任者とケアマネージャーが中心になり、医師の意見なども参考にして作成している。毎月のユニット会議でカンファレンスをおこない、利用者の状況や変化への対応などについて活発に意見交換をし、現状に即した計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートに情報を記載し情報共有をし、実践や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自拠点のサービスに加え、訪問医療、訪問マッサージ等と協力して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や、外出レク、散歩等で地域は出向いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科の提携医療機関は月2回の訪問診療があり、又、臨時的な往診も行っていたいております。	利用者は近隣のクリニックから月2回訪問診療を受けており、急変時や夜間などにも対応してもらえる。整形外科などの専門医受診の場合は、基本的には家族に同行を依頼しているが、状況に応じてホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はおりませんが往診医による受診も常に可能な状態であります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はサマリー等の情報提供を速やかに行える体制を取っております。又入院状況の状態の情報を確認しに病院に出向きお見舞いと合わせて病院関係者との関係をきずいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に於いてはご家族、本人の意向を把握し、医療機関との連携をとり、ケアの対応についてチームで話し合いを行って支援に取り組んでおります。	重度化・終末期対応指針があり、入居時に説明している。指針にはホームができること、看取りに関する援助方針などが記載されている。食事や水分の摂取量などに変化が生じた段階で、家族と話し合いの場を持ち、意向を確認している。話し合いには必要に応じて主治医も参加して、利用者、家族の意向に沿いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修、マニュアルで周知しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップを掲示し、消防訓練を年2回実施しております。	消防訓練は火災想定で年2回実施している。訓練は日中、夜間想定で実施し、利用者も参加して避難場所までの移動の流れを確認している。直近の台風時には、1階の利用者を2階に誘導し、安全の確保に努めた。備蓄は米、パン、水などを整備して災害時に備えている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の尊厳についての研修を行っており、言葉遣いやケアに於いて適切に行われるよう努めています。	人生の先輩として、言葉かけなどに配慮して対応するように管理者は職員に伝えている。利用者の尊厳については、研修やユニット会議でも話し合い、職員の意識付けを図っている。写真の掲載については、了解を得るなどプライバシー保護にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の日々の状態や変化に合わせ、本人のご意向に合った働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の日々の状態や変化に合わせ、本人のご意向に合った働きかけを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を行い、月1回の訪問理容をご希望があれば行っています。ご自身で着替えの可能な方は自由に着替えていただき、出来ない方はスタッフが季節やご希望があればそれに合わせた服を反映させており舞う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器洗いやテーブルを拭いて頂くなどしています。又お客様の食べたい食事の情報を聞きし献立作りに役立てています。	食事の献立は利用者の希望なども取り入れながら作成している。昼と夕食のメニューをリビングのボードに記載して、食事の時間が楽しみとなるように工夫している。食事の摂取に時間がかかる利用者も、見守りながら自分で食べてもらっており、利用者ができることを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食生活、禁食を把握し、時間にとらわれず食事の提供を行い、一日の食事、水分の摂取が出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施、訪問歯科による定期健診を受けています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄介助に際し、時間やパターンの把握に努めています。	トイレで排泄できるよう支援しており、食事の前やおやつ前など、生活の流れに沿いながらトイレ誘導をしている。夜間帯は、歩行が不安定な場合はポータブルトイレを使用するなど、個別の状況に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や水分摂取で便秘の解消に取り組んでいますが薬に頼らなければならぬお客様もいらっしゃいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定しスケジュールを組んでいますが、お客様の意向や体調に合わせて入浴して頂いております。	入浴は週2回から3回、利用者の希望や状況に応じて対応している。リフト浴を整備しており、立位が難しい利用者も湯船につかることができる。日曜日以外は毎日入浴できる体制があり、受診時や外出前に入浴を希望する場合も柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の習慣に合わせて入眠いただいております、日中に於いても本人の体調や意向にあわせて休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬にの用法、効果、目的を医療関係者の情報をスタッフが把握し、お客様に説明しています。服薬の支援と観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見や博物館に出向いたり外出支援を行っています、またカラオケやスタッフとともに歌を歌ったり、ゲームを楽しんだりして抱えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族同行の外出支援は未実施です。お客様の御家族をお呼びしてのハロウィーンパーティーやクリスマス会の実施をしています。	天気がよければ近所の公園などに散歩に行ったり、買い物にも出かけている。また、地域で開かれる認知症カフェに参加することも。ホームのイベントとして花見や博物館への外出、お寿司を食べに行くなどしている。	日常的には、近隣への散歩や買い物などに出かけており、近くのホームセンターに行って買い物をすることも考えている。今後は地域資源を活用した取り組みにも期待したい。

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の預かり金は原則事務所で一括管理させていただいております、買物の同行で職員と買物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の御希望により電話をかけたり、取り次いだりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた模様替えや飾り付けを行い季節感のある空間を演出しています。	冬場は室温や湿度にも配慮した環境づくりを心がけており、加湿器などにより、室内が乾燥しないようにしている。リビングには畳のスペースがあり、利用者家族が来訪した時には、お茶を点て皆で楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様一人一人の席は基本的には決まっておりますが移動は自由に出来ます、お客様同士の相性もありますので、気の合ったお客様同士で過ごして頂けるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器や危険物については持ち込み禁止ですが、日用品や使いなれた品物に関しては基本自由に持ち込んでいらっしゃいます。又本人の希望により必要な物品の購入する事も出来ます。	清潔であることを心がけており、居室は職員が毎日掃除している。居室内にも手すりが設置されており、利用者の安全面にも配慮している。帽子掛けスタンドに好きな帽子をたくさんかけている利用者もおり、それぞれの思いを大切に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の残存能力を理解し、活かしたケアを心掛け安全に配慮しながら自立した生活の支援を行っています。		